

## 「第5次東京都食育推進計画（案）」に対する意見募集の結果について

1 募集期間 令和8年2月5日（木）から同年3月10日（木）まで

2 意見数 23件

3 意見の内訳

- ①計画の考え方・指標 1件
- ②食育を推進する施策 17件
- ③その他 5件

4 意見の内容と都の考え方

※ご意見の内容は要約して掲載しております。

No.	該当箇所		ご意見（要旨）	ご意見に対する都の考え方
	ページ	内容		
①計画の考え方・指標				
1	P.17	①計画の考え方・指標	朝食欠食率の低下や主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の実践など、個人の生活に関わる目標を計画に掲げることは意義がある。都民一人ひとりが計画を理解し、自らの生活を見直す機会となることが重要である。	本計画では、都民の心身の健康増進と豊かな人間形成を基本理念に掲げ、指標と目標値を設定することで、取組の成果を客観的に把握しながら施策を推進することとしています。都は区市町村や関係団体等と連携しながら、都民一人ひとりの実践につながる食育を進めていきます。
②食育を推進する施策				
方向性Ⅰ 生涯を通じた心身の健康を実現する食育の推進				
2	P.3-5	②食育を推進する施策	朝食欠食については、食欲がない人もいることから、食習慣の問題としてのみ捉えるのではなく、食欲がなくても食べやすい栄養バランスの取れた食品の開発を企業に働きかけてはどうか。また、生活の厳しい貧困家庭に栄養バランスの取れた食事を提供する仕組みを整えることを提案する。	方向性Ⅰ「生涯を通じた心身の健康を実現する食育の推進」において、ライフステージや家庭環境に応じた食育の推進を掲げるとともに、多様なニーズや価値観に応じた食の理解と選択の促進を図ることとしています。
3	P.3	②食育を推進する施策	食生活の栄養バランスの乱れは心身の不調につながるおそれがあるため、コンビニエンスストア等に偏った食事にならないよう、食生活の重要性について積極的にPRしてほしい。	本計画では、心身の健康を保つため、栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣の重要性の普及啓発を掲げています。デジタルコンテンツの活用や講習会の開催など、多様な手法により情報発信を行い、食に関する理解の促進を図っていきます。
4	P.19	②食育を推進する施策	「TOKYO GROWN」における東京産食材のレシピ紹介について、家庭でも実践しやすいよう学校給食のレシピを紹介してはどうか。給食の献立は栄養バランスがよく東京産食材を使ったものもあり、家庭でも再現できると良い。	方向性Ⅰ-1「ライフステージや家庭環境に応じた食育の推進」において、東京産食材を使ったレシピの紹介等により家庭での食育を進めることとしており、いただいたご意見は、今後の取組を検討する中で参考にさせていただきます。

5	P.19	②食育を推進する施策	若い世代や働く世代の朝食欠食の要因として、時間がないことが考えられる。コンビニエンスストアと連携し、栄養バランスに配慮した手頃な価格の朝食メニューを提供するなど、朝食をとりやすい仕組みづくりを進めるほか、栄養記録アプリの使用推奨や健康に配慮したメニューの提案を行ってはどうか。	方向性Ⅰ－２「多様なニーズや価値観に応じた食の理解と選択の促進」において、飲食店等と連携して外食・中食での食生活改善の支援に取り組みます。また、方向性Ⅱ－４「DXを活用した食育の展開」に沿ってデジタル技術を活用した食育も推進していきます。
6	P.14	②食育を推進する施策	計画の目標達成（欠食率の低下、フードロス削減）のためには、個人の努力だけに頼るのではなく、外食・中食の活用も含めた社会全体としての取組が必要である。単身世帯では自炊によるフードロスが生じる場合もあり、また、特に若い世代の朝食欠食の背景には時間的・経済的要因もあることから、単身世帯が安く、早く、健康的に外食で朝食を済ませられるような取組を検討すべきである。	方向性Ⅰ－２「多様なニーズや価値観に応じた食の理解と選択の促進」において、飲食店等との連携により外食や中食においても食生活改善に取り組める環境づくりを進めていきます。あわせて、若い世代や働く世代の欠食・偏食対策を進めるとともに、食品ロス削減に向けた普及啓発に取り組んでいきます。
7	P.4,20	②食育を推進する施策	18～30代の朝食欠食率の高さが目立つが、親子向けの食育が多い一方、若年層への取組は少ないと感じる。現状改善のため、企業の入社研修などで食事について学ぶ機会を設けるなど、若年層への働きかけを強化してほしい。	本計画において、達成状況を把握するための指標の一つとして、若い世代の朝食欠食率を定めています。方向性Ⅰ－３「健康づくりを支える食の実践と行動変容の促進」において、食育活動団体と連携した働く世代の欠食・偏食対策に向けた普及啓発を進めることとしています。また、SNS等を活用した情報発信の推進により、幅広い世代が日常生活の中で実践しやすい情報提供に取り組んでいきます。
8	P.19	②食育を推進する施策	若い世代や子どもの朝食欠食や栄養バランスの偏りについて、都民の食育への意識を高める取組を進めてほしい。ポスターやパンフレットだけでなく、勤務先を通じた啓発や、都内の至る所におけるレシピカードの配布、一週間の朝食モデルの紹介など、日常生活の中で実践しやすい情報発信を行ってはどうか。	
方向性Ⅱ 食卓と生産現場の距離を縮める食育の推進				
9	P.7	②食育を推進する施策	都内農家として学校や保育園の食育活動（講演、圃場見学、収穫体験等）に協力しているが、無償対応には限界があるため、食育活動への補助や謝礼、教材費などの支援制度を設けてほしい。	方向性Ⅱ「食卓と生産現場の距離を縮める食育の推進」に沿って、関係団体や生産者の方々と連携しながら、小中学校や都民の方向けの食育体験の充実を図っていきます。

10	P. 16	②食育を推進する施策	消費者と生産現場の距離を縮めるため、消費者と生産者の触れ合いを推進し、生産者の食に込めた思いや大変さへの理解を深める取組を進めてほしい。また、東京の農林水産業の振興についても力強く推進してほしい。	本計画では、子どもから大人までが体験や学びを通じて食の背景や意味を理解し、健全な食を選択する力を育むことを目指しています。具体的には、生産者等を講師とした出前授業の実施に加え、栄養教諭等と生産者との交流など、農業現場への理解を深める機会を設けています。また、農林水産業の振興施策等とも連携しながら、都民が農業・漁業を体験できる機会の提供や、生産者との交流促進に取り組んでいきます。
11	P. 22	②食育を推進する施策	学校教育の中で食育に取り組むことは効果的であり、子供の頃から食や生産現場への理解を深め、望ましい食習慣を身に付けることは重要である。今後も関係者と連携して継続的に進めてほしい。	
12	P. 23	②食育を推進する施策	小中学校における出前授業に加え、農業体験など実際に体験する機会を設けることで、食や農業への理解が深まり記憶にも残りやすくなるため、教育ファームなど体験型の食育を学校教育に取り入れてほしい。	
13	P. 6	②食育を推進する施策	学校の授業で栄養バランスについて学ぶ際、教科書による説明が中心で、実際の食生活にどのように取り入れるかイメージしにくく、実践につながりにくいと感じる。授業の中で実際の食事を題材に栄養バランスを計算するなど、体験的に学べる取組を取り入れることで、将来の食生活に活かしやすくなると思う。	方向性Ⅱ－１「学校における食育活動の充実」において、給食や各教科の授業を通じて地場産物等を活用した食育活動を一層推進し、食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身に付けることを目指しています。
14	P. 10-14	②食育を推進する施策	小学校で東京都中央卸売市場食肉市場に隣接する「お肉の情報館」を社会科見学として活用し、牛や豚の飼育から出荷までの過程を学ぶ機会を設けてはどうか。これにより、食肉が食卓に届くまでの流れへの理解を深めるとともに、食に関わる仕事への理解促進につながるのではないかと。	方向性Ⅱ－２「生産・流通を学ぶ多様な体験機会の提供」において、生鮮食品等の流通の仕組みへの理解を深める取組を推進することとしています。食の生産・流通過程全般への理解を深める体験機会の充実を図っていきます。
15	P. 19	②食育を推進する施策	若い世代の関心を高めるため、SNSなど日常的に利用されている媒体を活用し、食に関する情報や実践例を分かりやすく発信してほしい。食育を生活の中で自然に取り入れられる形で伝える取組を進めてほしい。	SNSやデジタルコンテンツを活用した情報発信を推進し、若い世代の関心を高め、都民が日常生活の中で食育を実践しやすい情報の提供に取り組んでいきます。また、方向性Ⅲ－３「環境と調和した食の選択とウェルビーイングの実現」における、環境に配慮した食の選択を促進する取組も進めていきます。
16	P. 3	②食育を推進する施策	朝食欠食や偏った食事が見られることから、学生への教育やSNS等による情報発信を通じて、食について身近に考える機会を増やしてほしい。また、環境に配慮した食品について、普段の買い物の中で選びやすくなるよう取組を進めてほしい。	

17	P. 3, 9	②食育を推進する施策	第5次東京都食育推進計画（案）の方向性に賛成であり、特に若い世代への食育の充実が重要だと感じた。忙しい生活の中でも実践できるよう、コンビニや外食での食事の選び方など日常生活に取り入れやすい情報発信を充実させるとともに、食品ロス削減やエシカル消費など持続可能な食に関する体験型の取組を進めてほしい。	計画の方向性へのご賛同をいただきありがとうございます。 方向性Ⅰ－2「多様なニーズや価値観に応じた食の理解と選択の促進」において、都民一人ひとりが食生活の改善の重要性について理解し、日常生活で実践できるよう区市町村や関係団体等と連携した普及啓発に取り組んでいきます。 また、体験型の学びについても、方向性Ⅲ「持続可能な食を支える食育の推進」に沿って、環境と調和した持続可能な食の選択につながる体験機会や情報を提供していきます。
方向性Ⅲ 持続可能な食を支える食育の推進				
18	P. 33	②食育を推進する施策	食品ロス削減の取組として、スーパーマーケット等と連携した「てまえどり」の促進を進めてほしい。また、コンビニ等で販売期限を超えた食品を困窮世帯へ寄付する取組の促進も検討してほしい。	方向性Ⅲ－2「食品ロス削減に向けた行動と連携の推進」において、事業者・自治体等と連携した食べきり等の促進や、食品ロス削減行動に関する普及啓発を推進し、消費者の実践につなげていきます。
③その他				
19	P. 22	③その他	都立中学校で提供されている給食は、保護者の負担軽減になっており、制度には感謝している。一方で、特に野菜の味が口に合わず残してしまう生徒もいるため、制度は継続しつつ、生徒が食べやすいよう味や品質の改善を検討してほしい。	学校は、児童・生徒が生涯を通じて健康づくりを主体的に進める基礎を形成するうえで大きな役割を果たしています。 方向性Ⅱ－1「学校における食育活動の充実」における、給食の時間等を活用した食育を一層推進していきます。 給食の味や見た目の改善については、ご意見として承ります。
20	P. 22	③その他	東京都の学校給食は栄養管理が徹底されており、子どもの健康を支える重要な取組として評価できる。一方で栄養面を重視するあまり味や見た目が十分でないとの声もあるため、味や品質にも力を注ぐことで、より魅力的で誇れる給食に発展できるはずだと考える。	
21	P. 22	③その他	栄養バランスを考えた給食の提供は良い取組であり、無料のランチボックスはありがたい。一方で味について不満の声もあり食べ残しが生じているため、味の改善を図ることで残食の減少や人気向上につなげてほしい。	
22	P. 22	③その他	食事は健康や栄養だけでなく、おいしさも重要である。学校給食でも味が合わない場合、生徒が弁当に切り替えるなど利用が減ることがあるため、味も重要である。	
23	P. 11-12	③その他	学校給食のランチボックス方式では、欠席者分や量が多いことなどにより食べ残しが生じ、牛乳も手つかずのまま余るなど食品ロスが発生していると感じる。食べる量を調整できる食缶方式の導入や牛乳の注文制などにより、食品ロスの削減につなげてほしい。	
食品ロス削減については、方向性Ⅲ－2「食品ロス削減に向けた行動と連携の推進」において、食べきりの促進など食品ロス削減に向けた取組を位置づけており、都民一人ひとりが食品ロス削減を意識した行動をとれるよう自治体等と連携して普及啓発を進めていきます。				